



【ものづくり 人づくり 地域づくり】

みんなの力をあわせて 40年

10/30「協同・感謝のつどい」(4)

40年、組合員のみなさんへ感謝



(司会) 組合員の皆様に40年を感謝いたします。組合員を代表して、お気持ち寄せていただきました三名の方に記念品を。藤村静代さん、小松田文子さん、永井きみ子さん、前におすすめ下さい。

藤村さんは生協のすぐ近くにお住まいで、ずっと組合員として、そして監事さんとして困難な時期にもたいへん心配をかけ続けました。

小松田さんは、地域の幼稚園への食育出前講座を続け、また福島支援にはいつもごいっしょ、静かでコツコツ、でも筋を通す方です。

永井さんは、供給職員の健康を気遣って下さり、供給の日には職員みんなの分の食事を毎週毎週作って持たせて下さいました。ありがとうございました。

藤村さん

身に余ることで胸がいっぱいで、今までずっとお世話になってばかりできました。これからもよろしくお願ひします。



小松田さん

買うだけの組合員から何かお手伝いできればといろんなところに顔を出して、大石さんともよくけんかしましたが、それでも何とかやってきました。ありがとうございます。



永井さん

頼まれたわけではなかったのですが、男の子は自分の子どものようで、配達の子に夕方「お昼食べた? お腹すいてない?」って聞いたら「すいてる」って。

「よかったら食べていかない?」娘とおにぎり作って食べさせました。あるもので毎週作ってあげたことで感謝されるのはありがたいことです。目立つことは大嫌いで今日は困っちゃったわ・・・。



12月5回(おせち)のお届けは12/28(月)~30(水)の変則です

○12/5回(おせち特集)の注文は12/4回と**同時提出**です。

○12月5回(おせち)のお届けは

- 月・火コース → 12/28(月)
- 水・木コース → 12/29(火)
- 金コース → 12/30(水)



※年始は1/5(火)より営業です。

	日	月	火	水	木	金	土	
12月	13	14	15	16	17	18	19	
	【配達】12月3回(クリスマス特集) 12月4回と5回の注文書を同時提出							
	20	21	22	23	24	25	26	
	【配達】12月4回(年末まとめ買い特集) 1月1回・2回同時提出 1月1回注文提出							
12月	27	28	29	30	31	1/1	2	
	12月5回(おせち)配達 月・火コース 水・木コース 金コース				← お休みを頂きます →			
1月	3	4	5	6	7	8	9	
	お休み		1月1回					
			月・火コース	水コース	木コース	金コース		
		提出なし		1月2回注文書提出				

(司会) 生協のいちばんの主役で、様々に生協活動を担ってきてくれたこの20年の理事さん、監事さん、そして組合員のみなさんも今日はみんなで来て下さっています。組合員のみなさん、ご起立願いますでしょうか。今日は組合員を代表して私たちの元気な朽本さんより一言ごあいさつ頂けますでしょうか。



2000年以降の理事を代表して 朽本栄子さん

40周年おめでとうございます。常総生協は食はいのちをモットーにして組合員さん役員さん、職員さん、そして生産者のみなさんが協力して、私たちが安心して頂けるようになっていきます。ありがとうございます。これを次世代につなげていくために、より生産者の方々によりよくお願いしたいと思えます。ありがとうございました。



第Ⅱ期(1985年～1993年)理事を代表して 鎌田和子さん

40周年おめでとうございます。私たちが取手生協からずっと入って40をすぎた子どもたちも全部生協のもので育てました。



1980年代後半理事になりまして、すごくいろいろなことがありました。大変な時期がありました。それを乗り越えて、今届けられる注文書を見たときに、なんて安全安心な商品がいっぱい載っている、昔の味がする商品がいっぱいある事ってとってもうれしく思えます。

本当にみなさまありがとうございます。心から感謝しています。これからも永くよい商品を届けて頂けるようお願いいたします。



創設者(故)若菜徳則さんの奥様

はじめての方も多いと思いますが、若菜徳則の妻で若菜多摩江と申します。現在は岩手県でNPO法人をして、関東で子どもたちのいのちを守るといふ活動と同じ活動しております。今日は感無量です。こんなにね、大きく育て、そして本部も建てられ、並大抵の努力ではなかったろうなとしみじみ思っております。私たちいのちを守るといふことは食品の安全が大事ということで夫も私も、ここにいらっしゃるみなさんと共に。ここに来て、食を守るには、それを安全に作って下さっている生産者・事業者がいて、みなさんが常総生協を支えてくれるという、消費者と生産者の力があつたんだと改めて今日思っております。消費者、生産者、事業者のつながりの中で、これからも末永く子どもたちの未来や平和や安全が守られるように常総生協に力貸して下さい。岩手から見守っています。本日はありがとう。



職員永年勤続感謝

(司会) 20年以上永年勤続し常総生協に尽力された職員さんに感謝いたします。笹沢しづえさん、南武夫さん、四戸ふみ子さん前におすすみ下さい。

笹沢さんは、1975年取手生協設立時、守谷で最初に組合員になって班をつくり、創設期のボランティアからはじめてやがて生協の職員として40年間勤めてくれた常総生協の生き証人です。南さん、四戸さんはそれぞれ勤続25年、24年勤めて下さいました。そのほか、佐藤秀一さんは30年、岩野光史さんも25年になりますが、今日は配達のため第2部であらためて表彰させていただきます。



真ん中が生協設立以来40年勤めてくれた笹沢さん。(左)四戸さん、(右)南さん。
(右写真)佐藤さんと岩野さん

福島から農業者へ

二本松有機農業研究会

大内信一さん

福島県の中央部、二本松で有機農業をしております大内です。60kmは離れていますが原発事故で放射能の被害を受けました。「福島で安全な食など作れるはずがない」という声も聞こえてきました。仲間も避難していきました。

東北は長く冷害に耐えてきました。しかしその中で育ってきた作物は、強さ・賢さを持っています。その作物に励まされました。私は福島の農業を続けていかなければと思いました。みなさんからたくさん励まし多くの支援を頂きました。常総生協さんに協力頂きながら放射能を計り、結果も出してゆき



ました。福島の苦しみがあって原発が止まるのであれば我々も報われるのですが、今原発を再稼働させようとしています。本当に残念でなりません。日本の農業を守るのは我々生産者と生協や消費者との強い信頼関係があってこそ日本の農業が守れると思います。これからもよろしくお願ひします。

40周年感謝の記念品・・・協同への感謝の気持ちを込めて



和綿のハンカチ

(おらコットン-マインド松井- CHICA 協同作品)
つくばの綿づくりグループ「おらコットン」が育てた和綿を、日本で最後の一台となる和綿紡績機「ガラ紡」を引き取って残している岐阜の親子(マインド松井さんと息子さんの会社 CHICA)の手で織ってワッフル織りのハンカチに製品化できました。福島の赤ちゃんに和綿布団を送る運動をきっかけに、綿の栽培から綿繰り、そしてマイ布団づくりを経て、製品化の輪が繋がりました。
せわしく、使い捨ての世の中にあって、綿の手仕事を通して心の和みをとるもどす活動の環の作品。



ハーブのサツシエ

(高橋徳治商店-ワーカーズコープ-常総生協協同作品)
震災で工場を失った高橋さん。新たな工場建設は「地域の光になろう」と。常総生協がおつきあいのあるワーカーズコープを紹介し、高橋さんは被災地でひきこもりやニートの若者たちと共に、新工場前にハーブ園を開設。小物づくりから社会復帰を応援。社会協同の作品。



備蓄大豆の2年仕込醤油

(やさと農協-沼屋本店-常総生協協同作品)
手作り味噌用のやさと農協との契約備蓄大豆の一部を沼屋本店さんが生協専用樽で2年仕込み。
深い味わいと香りのハーモニーは、熟成をじっと待つことを教えてくれる協同の一品「まちわび」。

「思いやり弾心の宝物」

新本部センター設計施工 染谷工務店(常総市)

ぴかぴかの素敵な装丁で「常総生活協同組合配送センター及び本部建築工事」が冊子となって届きました。送り主は、設計施工(株)染谷工務店さん。



ページをめくるとあの日あの時がそのままに、より鮮明に蘇ってきました。

寒かったこの日は、初耳や初見の物事がいっぱいでした。「修祓、鍬入れの儀、祝詞奏上、切麻散米、玉串奉奠」等々。中でも土の神様への「鎮物」埋設、埋戻しの儀は印象深いものがありました。建物工事の無事の完成と、その将来を、是非にお守りくださいと、心鎮めて、参列の皆さんとともに祈りました。今も玄関ホールで、階段の一步一步に、ありがとうのシーンが思い起こされます。

建物は物流センター併設が同時でしたから、周囲の地主さん方にもご理解をいただきました。その他新設装置の関係者の皆様からは、根気の助言のお陰様をいただき続けました。職員は日常外の対処に大わらわで難事多発でした。相方の染谷工務店様には言い難きご苦勞をさせました。そうこうの、ありがとうが散りばめられた新建物のことを、いつか語らねばと、ずっと思い続けていました。

その一番は、寒さの中の地鎮祭。社員様のお心は温もり焼き芋のお出迎えにありました。全ての神事次第終了時に、あの神主さんが、控え目の笑顔で告白されました。芳しき漂う中での祀り事は初めてでしたと。

そして、伺い知る(株)染谷工務店服部社長の思いやり戦略のこと。それは突然に来说と言う。おーい、そうだなートイレの場所変えようよ。とおっしゃるそうです。しかし、どうあれ、生協に通い詰めた一番バッター



染谷工務店 服部社長

は、にこやか設計士の井上様。常総生協さんだからね、プラスチック製は不都合だからと、三通りのトイレ扉に、屋久杉を糸鋸で工作したお手製のステッカー付きの扉が完成しました。玄関右横の箱庭風花壇も、食材使用を考えたハーブ種が寄せ植えされていました。

そして、建物図体からは不似合いな廂の深々の長さ。お気づきでしたか？これは念願の物品搬入の際の雨よけの長さを、考え抜いて確保したものでした。こうして狭いながらもピッタリの見事さで収まった新センターと事務所は大勢の知恵の総意で完成した感動の賜物です。もう一つの逸話は、20t車運転手さんの不安払拭にお付き合いしました。狭い道路から入った後、方向転換の余地を危惧されたのです。聞き及んで後、搬入を待ち受けるお手間をいただく等、どこまでもの親密丁寧をいただきました。

明るく歯切れ良しの工事部・西村様。野村様は柔和で物腰優し気。渋目の持ち味お似合いの営業・中村様。残った物をゴミにせず、一工面させる根性の主、服部社長様は、挨拶上出来チーム一番にはご褒美を出されるとか。次の新たは、もしや社屋上に救命ボートやヘリ発着場架設・・・？楽しみに待ちます。

理事長 村井和美

